

## 全校朝会講話 「少しの工夫と手助けで」

全校のみなさん、おはようございます。

このところ続けて自分や友達の「よさ」について話をしてきました。

今日は、まず、私の「苦手なこと」から話します。

私は、子どものころから、人の顔と名前を覚えることがとても苦手でした。何回かあったことがある人でも、「あれ？誰だったかな？」ということがしょっちゅうありました。

ですから、人と出会ったとき、相手が名乗ってくれるととても安心しました。

もしかしたら、自分と同じような苦勞をしている人もいないかかもしれないと思って、今では、できる限り自分から立場と名前を相手に伝えるようにしています。

もう一つ、同じ場所にじっと座っているということもかなり苦手でした。何となく落ち着かなくなると、集中力も落ちてしまうのです。だから、授業中にちょっと立ち上がっていい活動などがあると、とてもホッとしました。中学生や高校生の頃、家で勉強するときは、「何時になったら少し他のことをする」と先に休憩時間を決めていました。そうすると、がんばれるのです。

人には誰にでも苦手なことがあるものです。みなさんにもあるはずです。そして、その苦手なことは、人によって違います。自分では、「できてあたりまえ」と思っていることでも、他の人にとっては、とても苦手なことだということもあります。

ただ、苦手なことでも、ちょっと工夫をしたり、誰かの助けがあったりすれば、大きな苦勞をすることもなく、みんなが同じように生活することができる場合も多くあります。

今度の4月、多聞小学校には『ひだまり学級』という新しい学級ができます。この学級は、とても人数が少ないクラスです。また、いろいろな学年の人が集まって一つのクラスができています。今、みんなが生活しているクラスとはずいぶん違う形ですね。

このクラスには、たとえば、目に見えるいろいろなものや聞こえてくるいろいろな音、周りの人のちょっとした動きなどが気になってしまい、集中して何かをすることが苦手な友達がいます。また、他の人から見ると「あれっ？」と思うようなタイミングで声が出てしまったり、体が動いてしまったりする友達もいます。でも、ちょっとした工夫や手助けがあれば、みんなと同じように楽しい学校生活を送ることができます。そして、得意なこと、すばらしい力もたくさんもっている友達です。

みんな同じ、多聞小学校の仲間です。仲間が増えること、私はとても楽しみにしています。

『ひだまり学級』の友達は、交流学習という形でみんなと一緒に勉強したり、休み時間に一緒に遊んだりすることもあります。まず、お互いのことをよく知り合えるように、仲良くしていったほしいなあと思っています。よろしくお願いしますね。

これで、お話を終わります。